



認定看護管理者教育課程  
セード・レベル開講式

あいさつする小川良雄プリンシバル

2020年度認定看護管理

者教育課程セカンドレベ

ルとサードレベルの開講式

が7月31日と8月19日、旗

の台キャンパスで開催され

た。今年度の同教育課程は

新型コロナウイルスによ

る延期を経て、感染予防を

徹底するためオンラインで

の開催となつた。

同教育課程は日本看護協

会が資格認定を行つてゐる

制度で、管理者として優れ

た資質を持ち、創造的に組

織を发展させることができ

るために、「ファース

ト開講にあたり、小川良雄

昭和大学リカレントカレッ

## セカンド・サード・レベル開講式を開催

### 認定看護管理者教育課程



オンライン開催の様子

あいさつする小川良雄プリンシバル

2020年度認定看護管

理者教育課程セカンドレベ

ルとサードレベルの開講式

が7月31日と8月19日、旗

の台キャンパスで開催され

た。今年度の同教育課程は

新型コロナウイルスによ

る延期を経て、感染予防を

徹底するためオンラインで

の開催となつた。

同教育課程は日本看護協

会が資格認定を行つてゐる

制度で、管理者として優れ

た資質を持ち、創造的に組

織を发展させることができ

るために、「ファース

ト開講にあたり、小川良雄

昭和大学リカレントカレッ

あいさつがあつた。

ツとして課程を終わられる

ことを期待してます」と

マスクを外したり、大きな声

で「私たちが留意しておきた

ことは今後のキャリアを進

みます」とまとめました。

■新型コロナウイルスに改め

て皆でガードを固めよう!

新型コロナウイルス感染が

長期化する中、ついつい防御

の手段が緩むこともあるかもし

るが、淡々と過ぎていきます。

■新型コロナウイルスによる

メンタル面への影響

新型コロナウイルスは、こ

れまでの日常生活・経済活動

を著しく制約し、人々に身体

的のみならず精神的にも大き

な影響を与えてます。夢も

希望も閉ざされてしまいそ

う。家族や周囲の人たち

が、うつしていらっしゃいま

す。自分たちの心配していま

# 令和2年度 科学研究費助成事業採択課題一覧(歯学部)

令和2年度の科学研究費助成事業の交付は全体で290件が採択され、総計で3億2740万円が交付される。その内、歯学部は103件が採択され、1億3360万円が交付される。

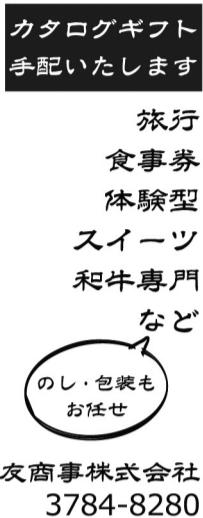
研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名	研究種目	所属	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	口腔生化学講座	教授	上條竜太郎	4,600,000	新規シグナル伝達物質・活性イオウ分子種による骨リモーディング制御機構の解明	歯科保存学講座 歯周病学講座	助教	高林 正行	2,700,000	複合現実(MR)による外科的歯内療法の視覚支援開発	
	歯科補綴学講座	教授	馬場 一美	4,100,000	リポジトリとiPS細胞バンクを基盤とした睡眠時ラキシズム発症機序の解明		助教	山田 理	1,400,000	う蝕罹患歯質における赤色励起蛍光発現条件の開発	
	口腔病態診断科学講座	教授	美島 健二	3,900,000	胎生期唾液腺組織における細胞系譜決定メカニズムの解明		兼任講師	今井 裕子	1,300,000	モノカルボン酸トランスポーターを標的とした歯周病性骨破壊の制御	
	口腔病理学部門	講師	田中 準一	4,300,000	同所移植可能なiPS細胞由来ヒト唾液腺オルガノイドの作出		助教	菅野真莉加	1,700,000	歯肉接合上皮細胞におけるレドックス制御因子Nrf2の細胞接着装置への影響の解析	
基盤研究(C)	口腔解剖学講座	講師	馬谷原光織	1,000,000	医学教育における生体センシング技術を用いた新しい技能教育方法の開発	歯科補綴学講座 口腔外科学講座 歯周病学講座 歯科保存学講座 歯科生物学部門	兼任講師	福西 美弥	1,800,000	超高齢社会のための汚れない義歯開発へ向けたMPCコーティング	
	口腔生理学講座	准教授	中村 史朗	1,000,000	咀嚼機能の獲得における抑制性シナプス形成の役割の解明		兼任講師	鈴木 航	800,000	骨・軟骨形成における低分子量Gタンパク質Cdc42の機能解析	
		講師	望月 文子	14,00,000	新規神経回路解析法を用いたラキシズムの発症メカニズムの解明		兼任講師	井上 咲映	700,000	軟骨変性疾患のVivoでのNADPHオキシダーゼに依存したヒアルロン酸分解の解明	
		講師	中山希世美	1,000,000	Phox2B陽性ニューロンを基にした咀嚼運動形成回路の解明		兼任講師	大嶋 瑶子	1,200,000	臨床応用に向けたセリア安定化アルミナ・ジルコニアインプラントの開発	
	口腔生化学講座	准教授	宮本 洋一	1,100,000	新規シグナル分子8-ニトロ-cGMPの骨リモーディングとその破綻における機能の解明		助教	浦野 絵里	1300000	神経堤由来幹細胞を用いた硬組織再生方法の開発	
		講師	須澤 徹夫	1,300,000	神経堤由来細胞とiPS細胞による歯原性細胞不在のエナメル芽細胞と象牙芽細胞誘導法		助教	西山 弘崇	1,400,000	少数歯欠損における新たな部分床義歯の開発—フルデジタル・ワークフローの確立と提唱	
		講師	山田 篤	1,100,000	硬組織形成におけるRhoファミリータンパク質の細胞内外シグナル伝達制御機構の解明		助教	池谷 賢二	1,800,000	口腔内細菌叢が与える全身への影響とMPCポリマーによる抑制効果の網羅的検証	
		講師	吉村健太郎	1,100,000	糖化ストレス分子メチルグリオキサールによる骨質劣化機序の解明とその改善方法の開発		助教	三田 稔	1,800,000	デジタル技術を用いた機械学習によるオーラルフレイルの予測モデルの構築	
	口腔微生物学講座	教授	桑田 啓貴	1,000,000	炎症性腸疾患により引き起こされる口腔ディスバイオースス誘導機構の解明		助教(歯科)	上村 江美	1,000,000	フルデジタルで機能・色調形態が生体に調和した被綴装置を作製するシステムの構築	
		助教	深町はるか	600,000	肺炎球菌感染と歯周病原細菌ヌクレアーゼの相互作用の解析		助教(歯科)	田林 万奈	2,200,000	デジタル技術を用いたTooth Wearの診断モデルの構築	
	歯科薬理学講座	講師	坂井 信裕	1,000,000	歯と骨の恒常性維持における脂質代謝関連分子の機能解明		助教(歯科)	吉田 裕哉	800000	脳波評価を基盤とした薬剤投与による睡眠時ラキシズム抑制効果発現メカニズムの解明	
		講師	唐川亜希子	900,000	骨吸収抑制薬が歯の発生・発達過程に及ぼす影響の解明		助教(歯科)	原 真央子	900000	無歯顎高齢者のQOLを保障する補綴治療介入モデルの構築	
	歯科保存学講座 歯科理工学部門	教授	柴田 陽	1,100,000	新規先端材料開発を目的とした遺伝子変換マウスのエナメル質ナメカニクス解析		助教	糸瀬 昌克	1,600,000	脂肪組織由来再生細胞による歯科領域の硬組織再生技術の確立	
		准教授	堀田 康弘	1,400,000	歯科用デジタルデータの規格化と新規3Dプリンタ用材料の実用化に向けた研究		助教	宮本 姫也	1,100,000	TPD52ファミリータンパクを介するスプラッシュのオートクライン機構の検索	
		講師	片岡 有	1,000,000	3次元傾斜構造型骨補填材の創生		口腔外科学講座 口腔外科学部門	講師	佐藤 仁	1,300,000	ミエリンの可視化と再生に着目した下槽神経損傷の新規治療戦略
		助教	荻野 玲奈	—	新規予防的エナメル質石灰化療法の開発		講師	高橋 正皓	1,600,000	脳波評価を用いた振動刺激による睡眠時ラキシズム抑制効果発現メカニズムの解明	
	歯科保存学講座 総合診療歯科学部門	准教授	伊佐津克彦	900,000	臨床研修歯科医師指導用の生体センシング技術による技能教育方法の開発		助教	吉田 敬太	1,100,000	デジタル印象法における高精度スキャナ補助デバイスの開発に関する戦略的研究	
		教授	山本 松男	700,000	多色細胞系譜追跡法を用いた歯肉接合上皮幹細胞の探索		普通研究生	中村 浩崇	1,100,000	振動刺激を用いた睡眠時ラキシズム抑制装置の効果の検証:ランダム化比較試験	
		講師	小出 容子	1,000,000	歯周治療の反応性とIL-10を指標とした早産リスクのエビジェネティクスでの検証		口腔外科学講座 口腔外科学部門	助教	糸瀬 昌克	1,600,000	脂肪組織由来再生細胞による歯科領域の硬組織再生技術の確立
		助教	三森 香織	1,100,000	SLPIが関与する接合上皮の感染防御機構の解明		助教	宮本 姫也	1,100,000	TPD52ファミリータンパクを介するスプラッシュのオートクライン機構の検索	
	歯周病学講座	助教	相澤 恵	1,100,000	歯肉接合上皮の維持・防御機構における低分子量Gタンパク質Cdc42の機能の解明		口腔外科学講座 口腔外科学部門	講師	佐藤 仁	1,300,000	ミエリンの可視化と再生に着目した下槽神経損傷の新規治療戦略
		講師	高場 雅之	1,300,000	無線型振動刺激を用いたスプリントによる睡眠時ラキシズムの長期抑制効果の検証		講師	高橋 正皓	1,600,000	脳波評価を用いた振動刺激による睡眠時ラキシズム抑制効果発現メカニズムの解明	
		講師	安部 友佳	1,200,000	睡眠時ラキシズム特異的iPS細胞によるGABA作動性神経伝達機構の検討		助教	吉田 寛	1,400,000	頸面領域に存在する神経堤由来細胞による頸裂部骨移植術の開発	
		講師	田中 晋平	1,500,000	デジタル印象の精度向上のための補助デバイスの開発と検証に関する戦略的研究		非常勤医師	泉田 恵理	900,000	原発性萌出不全特異的iPS細胞を用いた疾患発症機序の解明	
	歯科補綴学講座	兼任講師	池田美菜子	1,000,000	光遺伝学的手法を用いたオレキシンの咀嚼運動に関する調節機構の解明		非常勤医師	中脇 貴俊	800,000	先天性疾患の表現型から選定される候補遺伝子が担うヒト3次元頸面形態への役割	
		講師	高場 雅之	1,300,000	無線型振動刺激を用いたスプリントによる睡眠時ラキシズムの長期抑制効果の検証		非常勤医師	長山 和弘	1,600,000	骨細胞の生存シグナルとしての8-nitro-cGMPの機能解明	
		講師	安部 友佳	1,200,000	睡眠時ラキシズム特異的iPS細胞によるGABA作動性神経伝達機構の検討		助教	行森 茜	1,600,000	マウス線維芽細胞へのダイレクトリプログラミングによる唾液腺の誘導	
		講師	田中 晋平	1,500,000	デジタル印象の精度向上のための補助デバイスの開発と検証に関する戦略的研究		助教	鯨岡 晴子	1,300,000	免疫チェックポイント分子PD-L1を介したシェーガレン症候群治療モデルの開発	
	口腔外科学講座 顎顔面口腔外科学部門	教授	代田 達夫	1,000,000	オートフラーを基とした下槽神経障害に対する新規薬物療法の開発		助教	下村 直史	1,000,000	ナノインデンテーション試験によるS-PRG作用歯の歯質強化機構の解明	
		准教授	鍛谷 宇明	900,000	新たな治療方法の開発に向けたヒト乳頭頸ウイルス関連口腔癌の発生機構の解明		助教	松島 瞳	1,000,000	乳幼児期におけるミティスレンサ球菌の口腔内細菌叢形成における役割の解明	
		講師	葭葉 清香	1,700,000	メタゲノム解析を応用した心臓弁膜症の病態の解明と有効な周術期口腔機能管理法の確立		助教	幸塚 裕也	500,000	鼻フローモニタリングは静脈内鎮静時の呼吸異常を低減するか:ランダム化比較試験	
		助教	棕代 義樹	800,000	低酸素状態の口腔扁平上皮細胞におけるTPD52の細胞生存因子としての役割の検索		助教	山田めぐる	800,000	静脈内鎮静法において、新しい概念である酸素化予備能(ORI)の有用性の検討	
	歯科矯正学講座	講師	芳賀 秀郷	1,000,000	コーンビームCT画像から取得した3次元的下顎骨形態に関連するヒトゲノム遺伝子探索		助教	立川 哲史	1,600,000	経動脈除脳灌流標本を用いた気道確保困難時の病態解剖	
		講師	安原 理佳	1,100,000	垂鉛の恒常性の破綻とエキソームを介した軟骨代謝異常の解析		助教(歯科)	河内 亜希	1,800,000	OSAに対する非侵襲性電気刺激装置と限定的筋機能療法の検討:ランダム化比較試験	
	口腔病態診断科学講座 口腔病理学部門	講師	松田 幸子	1,300,000	AIを用いた口腔機能低下(オーラルフレイル)自動画像診断支援ソフトウェアの開発		講師	石崎 晶子	800,000	低出生体重児に対する食支援方法の確立—摂食嚥下機能と全身発達の関連性—	
		講師	浅川 剛吉	1,200,000	Down症候群歯根膜由来細胞による骨髓間葉系幹細胞遊走因子発現解析		助教	刑部 月	500,000	口腔内細菌の同定による口腔粘膜障害の予防法と新たな歯科介入方法の構築	
	小児成育歯科学講座	教授	佐藤 裕二	600,000	質問紙法を用いた各種咀嚼機能評価法の標準化の検討		助教	宮久保あや子	1,300,000	メタゲノム解析を用いた口腔内細菌叢と内頸動脈狭窄症との関連性の追求	
		教授(員外)	木庭 新治	1,000,000	心大血管リハビリテーションによるHDL機能の改善と再発予防効果の解明		助教	松井 庄平	1,800,000	口腔内細菌叢と認知症病態の関連性の解明	
	スペシャルニーズ口腔医学講座 口腔衛生学部門	教授	弘中 祥司	1,500,000	超音波エコー装置を用いた小児の口腔機能規格評価法の確立		講師	伊原 良明	300,000	嚥下タイミングの可視化が食事介助に与える影響について	
		講師	石川健太郎	400,000	筋力度を用いた口腔周囲筋の加齢変化の解明と新たな摂食嚥下機能評価法の開発		助教	嘉手納未季	1,000,000	歯科を受診する自閉症におけるメトトニンの機能解明:自然免疫との接点について	
		講師	内海 明美	700,000	幼児期の食習慣が学齢期の口腔機能発達に及ぼす要因分析とスクリーニング方法の開発		兼任講師	栗谷 未来	1,200,000	歯周病モデルマウスを用いた炎症性骨破壊に対する骨吸収抑制薬の作用機序	
	スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門	教授	片岡 竜太	1,000,000	主体的問題解決能力を養成する健康をテーマとした分野横断型学修システムの開発と評価		助教	馬目 瑠子	1,000,000	TLR7リガンドR848による癌骨浸潤治療法の開発	
		兼任講師	渡邊 友希	2,100,000	歯科慢性痛患者を対象とした認知行動療法プログラムの作成と有効性の検討						

## 「新しい生活様式」における私のステイホーム

昭和大学学生部長

上條 竜太郎

コロナウイルスの感染拡大は、世界中の人々の暮らしと仕事の全体を大きく変えています。その変化はどこまで広がるのか、収束はいつなのか、元の世界に戻るのか、それとも後戻りできず新しい社会が始まるとか、はつきりとしたことは誰にもわからない中、私はステイホーム(stay home)を求められてきました。



1都3県による「いのちを守るSTAY HOME週間」は、5月6日に政府が緊急事態宣言を解除したことを受け、終了しましたが、新型コロナウイルスが依然として感染拡大の脅威を残しており、ステイホームを推薦する潮流そのものは消えず、続いています。本学の日常も、ステイホームによりさまざまな影響を受けています。

本来、大学生は人生の中でも最も素晴らしい時期にいます。この時代の人や知り合いは一生の宝です。勉学はもちろんのこと、クラブ活動やボランティア活動などにも積極的に取り組むべきです。今年度は旗ヶ岡祭はじめとする行事の開催され、現在、学生がこれらの活動に対面で参加することは困難です。加えて、今年度は旗ヶ岡祭をはじめとする行事の開催

を見送らせていただきました。やむを得ないことは思いますが、学生には申し訳なく

このような環境下、学生はオンラインツールを駆使してお互いの連絡を密にして、新たな環境に積極的に取り組んでいるようです。

例えば、仲間と学内で行つて、いたトレーニングをZo omなどのWeb会議アプリを通して仲間と同時に自

例え、仲間と学内で行つて、いたトレーニングをZo omなどのWeb会議アプリを通して仲間と同時に自

例え、仲間と学内で行つて、いたトレーニングをZo omなどのWeb会議アプリを通して仲間と同時に自

例え、仲間と学内で行つて、いたトレーニングをZo omなどのWeb会議アプリを通して仲間と同時に自

例え、仲間と学内で行つて、いたトレーニングをZo omなどのWeb会議アプリを通して仲間と同時に自

例え、仲間と学内で行つて、いたトレーニングをZo omなどのWeb会議アプリを通して仲間と同時に自

## 新型コロナウイルス対応PCRセンター 検査数が10,000件を超える

昭和大学新型コロナウイルス対応PCRセンターの検査数が9月2日時点に長期休暇期間では、放題で10,000件を超えた。

同センターは本学各附属病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目的で5月22日から稼働し、6月2日には品川区保健所から衛生検査所として認可された。本学旗の台キャンパスに設置され、本内祐二センター長のもと、薬理科換え実験室、医・歯・薬学研究センター、遺伝子組

に結果(陽性・陰性)を判定することができる同センターは、本学の新型コロナウイルス感染管理対策を担当

として、1日の生活リズムの維持管理も重要な役割を果たす。私も学生時代は、特に長期休暇期間では、放題で過ごしていました。現在、本学の学生は実習で登校する日もありますので、昼夜逆転のような事態になることは多くないかも知れませんが、これまでの毎日登校する習慣とは全く違う生活様式になっています。そこで、私たち教育職員、特に指導担任、時としては就学支援

の先生方は、担当の学生がどのような生活様式になっているか、きめ細やかな観察と指導をお願い

できればと思います。医療従事者を志す本学の学生にとって、基本的には朝起きて働き、夜は休むという生活様式が好ましいのだと思います。将来

従事する医療現場に慣れ準備としても朝型の生

活を身につけてほしいと切に願っています。

実際の医療現場でもオンライン診療が定着する可能性

に運用されている。

PCR検査の対象は、附

属8病院の発熱外来受診

患者、体調不良の職員・学

生のほか、病院実習前の学

生、富士吉田入寮前の学生

および職員のスクリーニ

ング検査なども加わり、1日あたり最大で200検体以上に

学内で数時間以内に迅速

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目もありますので、昼夜逆転のような事態になることは多くないかも知れませんが、これまでの毎日登校する習慣とは全く違う生活様式になっています。そこで、私たち教育職員、特に指導担任、時としては就学支援

の先生方は、担当の学生がどのような生活様式になっているか、きめ細やかな観察と指導をお願いできればと思います。医療従事者を志す本学の学生にとって、基本的には朝起きて働き、夜は休むという生活様式が好ましいのだと思います。将来

従事する医療現場に慣れ準備としても朝型の生

活を身につけてほしいと切に願っています。

実際の医療現場でもオンライン診療が定着する可能性に結果(陽性・陰性)を判定することができる同センターエは、本学の新型コロナウイルス感染管理対策を担う存在となっている。

同センターは本学各附属病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目的で5月22日から稼働し、6月2日には品川区保健所から衛生検査所として認可された。本学旗の台キャンパスに設置され、本内祐二センター長のもと、薬理科換え実験室、医・歯・薬学研究センター、遺伝子組

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

PCR検査の対象は、附

属8病院の発熱外来受診

患者、体調不良の職員・学

生のほか、病院実習前の学

生、富士吉田入寮前の学生

および職員のスクリーニ

ング検査なども加わり、1日

あたり最大で200検体以上に

学内で数時間以内に迅速

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

同センターは本学各附属病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目的で5月22日から稼働し、6月2日には品川区保健所から衛生検査所として認可された。本学旗の台キャンパスに設置され、本内祐二センター長のもと、薬理科換え実験室、医・歯・薬学研究センター、遺伝子組

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

PCR検査の対象は、附

属8病院の発熱外来受診

患者、体調不良の職員・学

生のほか、病院実習前の学

生、富士吉田入寮前の学生

および職員のスクリーニ

ング検査なども加わり、1日

あたり最大で200検体以上に

学内で数時間以内に迅速

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

同センターは本学各附属病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目的で5月22日から稼働し、6月2日には品川区保健所から衛生検査所として認可された。本学旗の台キャンパスに設置され、本内祐二センター長のもと、薬理科換え実験室、医・歯・薬学研究センター、遺伝子組

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

PCR検査の対象は、附

属8病院の発熱外来受診

患者、体調不良の職員・学

生のほか、病院実習前の学

生、富士吉田入寮前の学生

および職員のスクリーニ

ング検査なども加わり、1日

あたり最大で200検体以上に

学内で数時間以内に迅速

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

同センターは本学各附属病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目的で5月22日から稼働し、6月2日には品川区保健所から衛生検査所として認可された。本学旗の台キャンパスに設置され、本内祐二センター長のもと、薬理科換え実験室、医・歯・薬学研究センター、遺伝子組

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

PCR検査の対象は、附

属8病院の発熱外来受診

患者、体調不良の職員・学

生のほか、病院実習前の学

生、富士吉田入寮前の学生

および職員のスクリーニ

ング検査なども加わり、1日

あたり最大で200検体以上に

学内で数時間以内に迅速

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

同センターは本学各附属病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目的で5月22日から稼働し、6月2日には品川区保健所から衛生検査所として認可された。本学旗の台キャンパスに設置され、本内祐二センター長のもと、薬理科換え実験室、医・歯・薬学研究センター、遺伝子組

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

PCR検査の対象は、附

属8病院の発熱外来受診

患者、体調不良の職員・学

生のほか、病院実習前の学

生、富士吉田入寮前の学生

および職員のスクリーニ

ング検査なども加わり、1日

あたり最大で200検体以上に

学内で数時間以内に迅速

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う

存在となっている。

同センターは本学各附属病院における新型コロナウイルスの感染を判定する目的で5月22日から稼働し、6月2日には品川区保健所から衛生検査所として認可された。本学旗の台キャンパスに設置され、本内祐二センター長のもと、薬理科換え実験室、医・歯・薬学研究センター、遺伝子組

に結果(陽性・陰性)を判定

することができる同センタ

ーは、本学の新型コロナウ

イルス感染管理対策を担う